

今週のみことば

「主に頼むギデオン」

(士師記 7 章 1 節～ 8 節)

仲森文穂

「そのとき、主はギデオンに仰せられた。『あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが「自分の手で自分を救った」と言って、わたしに向かって誇るといけないから。』」
(7:2)

今日のメッセージ要旨

○士師記は、カナン侵入後の約 200 年間、つまり王国時代の前の時代の士師たちの活躍を記しています。士師とは、外敵がおそってきた時に、それに立ち向かった軍事的、政治的ヒーローのことです。登場する士師は全部で 12 名います。デボラという女性の士師もありました。ギデオンもその一人です。外敵ミデヤン人に 7 年間苦しめられたイスラエルが、みずからの罪を悔い、救いを求めたとき、主はギデオンを士師としてお立てになりました。ギデオンは普通の青年でした。臆病で、自信も何もない人でした。そんな人であっても士師に選ばれたのです。私たちは学びます。主のご用をする人は自信がありすぎてはいけないのだと。ギデオンは小さく弱くて、神に祈ることなしには一歩も進むことができなかった。だから士師に選ばれたのではないのでしょうか。ギデオン物語には、「主があなたと共におられる」という言葉が何度も出てきます。これこそ人が拠って立つ力、主がイスラエルに求める信仰の姿なのだと思います。

○ミデヤン軍は 13 万 5 千人。その大軍を見て「いなご」(7:12) を連想した所に、農夫ギデオンの不安な気持が表現されています。これに対して、ギデオンの要請に応じたイスラエルの志願兵は 3 万 2 千人。10 万人も差があるのです。これで本当に勝つことができるのか。ところが、神様はギデオンに「あなたの兵は多すぎる」と言われたのです。この 3 万 2 千人が精鋭 300 人にまで減らされるシーンは、胸がドキドキします。数年前、「300 人」と題する映画を見ました。レオニダスが率いるスパルタ軍 300 人が 100 万人のペルシャ軍と戦うテルモピュレーの戦いを描いた映画です。味方の裏切りにより全滅しますが、ペルシャ王の顔に傷をつけるほど勇猛でした。

○ギデオンの場合は、まさに「主の山に備えあり」でした。ギデオンは主の助けにより、みごとに奇襲作戦を成功させ、大軍を打ち負かすことができたのです。ギデオンはこれは主の勝利だと分かっていました。だから彼は「王になってください」という民の要請を断り、「主があなたたちを治められる」と答えています。彼はエフォド（ここでは金の神の像）を作り、自分の町オフラに置きました。戦勝を記念したのですが、そこは偶像礼拝の場となった、といいます。主の名よりもギデオンの名が讃えられたからでしょう。また彼は息子にアビメレク（わが父は王なり）という名をつけました。彼は自分を密かに誇りたかったのかも知れませんが、でもギデオンはその後 40 年間、民に平和をもたらしました。主に頼るギデオンも自分をひそかに誇るギデオンも、同じギデオンです。でも、主の導きを求めなければ一歩も進めなかった頃のギデオンこそ、私たちが失ってはならない信仰の姿ではないかと思います。